

社教連会報

発行 一般社団法人 全国社会教育委員連合 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6
日本弘道会ビル7階 TEL 03-6380-8540

変化を恐れない新しい生活様式下の社会教育

全国社会教育委員連合副会長

金藤 ふゆ子

2019年度より全国社会教育委員連合の副会長の重任を仰せつかりました金藤ふゆ子と申します。本会が社会教育委員の全国組織として、委員の皆さまの交流・情報共有・研修等の場となり、また皆さまの活動上の様々な問題や課題に寄り添いご支援を行うための諸事業に誠に微力ではございますが精一杯取り組む所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は現在、全国社会教育委員連合

の事業の一環として他の編集委員の方々と共に本会の季刊誌「社教情報」の編集を担当させて頂いております。2021年2月に刊行予定の第84号は、緊急特集テーマとして「新しい生活様式下における社会教育委員と関係行政・機関の対応と課題」を取りあげることとしました。是非、発刊の折には本誌にお目通しを頂きたくお願い申し上げます。ここでは社会教育委員の皆さまや社会教育関係行政・機関から多くのご寄稿



金藤 ふゆ子
(かねふじ ふゆこ)

■プロフィール

茨城県出身。博士(教育学)。平成元(1989)年、筑波大学大学院教育学研究科博士課程を単位取得退学後、東京都立教育研究所経営研究部社会教育研究室に研究主事として勤務。
平成5(1993)年より常磐大学人間科学部専任講師、准教授、教授として勤務。
平成25(2013)年より文教大学人間科学部教授(現職)として勤務。
2018年より茨城県生涯学習審議会・社会教育委員会議会長

を頂きました。コロナ禍の中でもそれぞれが多様な工夫をこらしながら社会教育活動に取り組まれる現況が浮かび上がりました。私はその編集作業を通じて皆さまの活動の背景に、極めて困難な状況にあっても決して社会教育を停滞させてはならないという強い情熱(パッション)があることを改めて実感しました。

私達は今、全世界的な感染症の蔓延する困難な時代にあります。しかし、現在の状況が生じる前に日本は社会教育を核とした人づくり・つながりづくり・地域づくりをめざす教育政策を進めてきました。新たな組織づくりや法整備も着手されてきました。私はそうした取り組みを基礎として、新しい生活様式下においても社会教育を核とする人づくり・つながりづくり・地域づくりは可能だと信じます。感染予防を行った対面、オンライン、VR(バーチャル・リアリティ)等活用できる学びの方法は何でも用いて、変化を恐れず社会教育活動を継続することが重要だと考えます。そして本会が各地域の社会教育の継続と発展に少しでもお役に立つものでありたいと願います。何卒、皆さまの引き続きのご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。

第六十二回全国社会教育研究大会新潟大会を終えて

令和二年十一月十一日、第六十二回

全国社会教育研究大会新潟大会、第五十一回関東甲信越静社会教育研究大会新潟大会、第二十回新潟県社会教育研究大会長岡大会が「未来につなぐ『米百俵』」フェニックスの地ではじまるこれからの社会教育」を大会スローガンに、シテイホールプラザ「アオーレ長岡」を会場に行われました。

今年の研究主題は「新しい社会教育をデザインする つなぎ はぐくみ 響きあう 生涯学習社会の実現」であり、COVID-19の感染拡大に伴い、先行きが見えない状況が続く中で、社会を分断する行為が横行する今だからこそ「人々の心をつなぎ、はぐくみ、響きあわせる」社会教育が重要であるといった視点から、活発な論議が行われ、社会教育委員としての職責の重さを痛感する研究大会でした。

しかしながら、COVID-19の感染の終息をみない中での研究大会でしたので、県を越えての移動の危険性、ソーシャルディスタンス等を考慮し、感染拡大防止策を十分に整

えた上で、新潟県内在住の社会教育

関係者を対象に、事例発表、シンポジウム、記念講演会等を一日に短縮して実施し、全国の皆様へは、書面（大会冊子）及び研究大会の様子をインターネットに動画配信することを基本に開催しました。大会当日は、新潟県内から約250名の参加のもと、事例発表では、新潟市より「高校生が主役の地域での学び」学校を核にした社会教育による地域づくり（角野仁美様）、燕市より「食育活動から展開する家庭教育」（神保一江様）、糸魚川市より「地域の元気を引き出す社会教育」西海地区地域づくりプランの活動理念と取組について（古畑伸一様）、長岡市より「学び」と「交流」の拠点として「長岡の人が育つまちづくりを目指して」（近藤典子様）、村上市より「ささえ隊（たい）・つなぎ隊（たい）・つくり隊（たい）」高齢

者が活躍して障がい者が笑顔になるまち」（渡邊優子様）の五つの発表があり、新潟大学教職大学院准教授 雲尾周様の助言のもと、新しい社会教育をデザインするための具体的

な実践をイメージすることができま

した。また、シンポジウムでは、全国社会教育委員連合会会長 鈴木真理様、新潟市食育・花育センター長 真柄正幸様、まちなかキャンパス長岡学長 羽賀友信様をシンポジスト、新潟県社会教育委員連絡協議会会長 山田智之をコーディネーターに、本研究大会の研究主題をテーマに活発な論議・意見交換が行われ、関係者がつながることの重要性を再確認しまし

た。さらに、記念講演では、女優・エッセイストの星野知子様から「当たり前前の幸せが響きあう社会」と題して録画によるご講演をいただき、録画視聴のち、星野様と会場を結び、オンラインによる対談を行いました。そして、あたりまえの幸せを温めるために、「優しさ」と「ぶれない心」の大切さを示唆していただきました。

大会後、本大会による感染者の情報もなく、無事に本大会を終えることができましたと関係者一同、安堵しております。本大会テーマに表しました「米百俵」の精神は、開催地である長岡市に伝わる教育によって新しい



時代を生き抜く力を育むことの大切さを伝える精神です。COVID-19の感染拡大をはじめ、いかなる状況下においても、我々は「つながり」、互いに「はぐくみあい」、「米百俵（こめひゃつびょう）」の精神を響きあわせ、「これからの時代生き抜く力を育む」生涯学習社会の実現」を、長岡の地で誓いました。

第63回全国社会教育研究大会 石川大会
 第52回東海北陸社会教育研究大会石川大会
 令和3年度石川県社会教育委員研究協議会 **ご案内**

今こそ攻めの社会教育を！ いよっ社会教育委員！

石川県は、白く輝く霊峰白山から豊かな水の流れが潤す加賀平野、日本海に囲まれた自然豊かな能登の里山里海、加賀百万石の武家文化を今も受け継ぐ城下町金沢をはじめ、美しく豊かな自然、海や山の幸、工芸や芸能、温泉など魅力にあふれ、北陸新幹線金沢開業後ますます活気にあふれております。

さて、少子高齢化が急激に進むとともに、都市圏への人口集中が続く中、人口が大幅に減少する深刻な事態を迎えている地域が増えていきます。こうした中、社会教育には、新たな役割として、社会教育を基盤として「人づくり」「地域づくり」「つながりづくり」が期待されています。住民自らが地域の担い手として、地域に愛着・帰属意識を持ち、よりよい地域づくりに主体的に関わっていくことが求められています。

社会教育委員は、地域の実情を熟知し、地域課題解決に向け広い見識と豊富な経験を有することから、社会教育の指導者といっても過言ではありません。かつて孔子は指導者に求められるものとして、智・仁・勇を挙げました。知者は判断力があるから迷わず、仁者は誠実であるから後悔せず、勇者は行動力があるから積極的に挑戦する。多くの賢人がこれを柱としてきました。

小松市は、歌舞伎十八番の1つである「勸進帳」の舞台となった地です。そこには弁慶の「智」、富樫の「仁」、義経の「勇」が描かれていることから、智仁勇が古くから大切に受け継がれてきました。本大会の開催地として、まさにふさわしい場所です。

本大会が、今後の社会教育の果たすべき役割を明確にするとともに、皆様に実践交流の機会を提供できる実り多き大会にしていきたいと思っております。

石川県社会教育委員連絡協議会会長
 第63回全国社会教育研究大会石川大会実行委員長 持木 一茂

◇大会の概要

- 1 研究主題 地域の未来を創る社会教育のさらなる挑戦～智仁勇が未来をクリエイトする～
- 2 期 日 令和3年10月27日(水)～29日(金)
- 3 会 場 こまつ芸術劇場うらら(小松市土居原町710番地) 他
- 4 大会日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	20:00
第1日 10/27 (水)							全国社教連 理事会 15:00～16:30		全国社教連 事務局会議 17:00～18:00		
第2日 10/28 (木)		石川県社教連 協議会 10:30～11:30	受付 10:30～12:30	フリック エコー 12:30 13:00	開会行事 表彰式 13:00～13:50		記念講演・シンポジウム 14:00～16:40	閉 会 行 事	分科会 打ち合わせ 17:00～18:00		情報交換会 18:30～20:30
第3日 10/29 (金)	受 付	分科会 9:30～12:30									

5 分科会

テーマ
家庭教育支援
青少年の健全育成(含:地域と学校の協同)
地域文化の振興(含:多文化共生・社会教育施設)
地域の活性化(含:高齢者教育)
社会教育委員の役割

- 6 大会参加費 5,000円/人(参加資料代として)

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、中止または変更となる場合があります。

令和2年度
地区別社会教育
研究大会

東北地区
令和2年度

東北地区社会教育研究大会
(大会冊子)の報告

本県では大会開催に向け、平成30年度に秋田県社会教育委員連絡協議会と秋田県公民館連合会と合同で大会実行委員会を組織し、準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、大会を中止せざるを得なくなりました。参加される方々と議論を交わし、交流するという願いは叶いませんでしたが、令和2年度に生涯学習・社会教育関係の表彰を受賞された方々を紹介すること、研修主題にある社会教育の力、取組を秋田から発信すること、また、本県が大会事務局を務めた足跡を記録に残したいとの思いから、この度の大会記念誌の作成に至りました。

記念誌を作成するに当たって、大きく二つの課題がありました。

一つは、大会記念誌を秋田大会の

足跡になり得る誌面内容にする点でした。構成や体裁、ページ数等について、事務局で話し合い、役員の皆様に御意見をいただきながら作成しました。

もう一つは、何を盛り込んで、どの程度の情報量にすることが大会準備に携わった方々の思いを発信することにつながるのかという点でした。これについては、各分科会運営委員の尽力により、各分科会の取組事例を記念誌に載せ、全国に情報発信することで、課題の解決に向かうことができました。

本誌の概要は、主催者あいさつに始まり、秋田県出身者である橋本五郎氏からの寄稿、生涯学習・社会教育関係の被表彰者の紹介、5つの分科会による事例紹介、次期開催県である山形県社会教育連絡協議会会長あいさつ、そして大会役員等の名簿という内容で構成されています。

記念講演をいただく予定だった橋本五郎氏のメッセージ、また、来県していただいた皆様に直接お伝えする予定だった各分科会の事例紹介等について、記念誌をお読みいただいで、開催されるはずだった秋田大会の雰囲気や秋田県の現在を感じていただけると幸いです。また、大会役

員等の名簿には、人事異動等で関係職から離れた方々のお名前も記載し、オール秋田で準備を進めてきたことを記録として残しました。

今回、記念誌を作成することによって得た成果を次のように考えています。

まずは、秋田大会の足跡を残すことができました。さらに、大会自体は東北規模であったわけですが、この記念誌の発行により、秋田県の事例を全国に発信する機会になったことも大きな成果と捉えています。また、原稿を作成するに当たり、各地区の取組を振り返る機会になったことや、動き始めていた各分科会運営委員会の活躍の場が創出できたこと、生涯学習・社会教育関係者の連携が図られたことなど、多くの成果を得ることができたと考えております。

秋田大会の研究主題は「新たな時代 今、求められる社会教育の力」生涯学習50年をむかえる秋田からの発信」でした。本県は、全国に先駆けて生涯学習に力を注ぎ、50年の歴史を積み重ねてまいりました。その取組を基盤にしながら、変化が

激しく多くの課題を抱えている現代社会において、将来を見据え、これからの地域社会をどのように創り上げ次世代に引き継いでいくのか、研究・協議をする貴重な機会が「大会の中止」という形で失われてしまいました。時代が変わっても、困難な世の中が続いたとしても「社会教育に求められる力とは何か」を、皆様と共に追求し続けていくことができたいと思います。

「汝、何の為に其処に在り也」という、本県が輩出した「公民館運動の父 鈴木健次郎」のこの言葉に、自信をもって応えられる我々生涯学習・社会教育関係者、そして秋田県でありたいと思います。

秋田県社会教育委員連絡協議会
会長 加藤 寿一



九州地区

地域への愛着を深め、

新たな地域づくりをめざす社会教育

～シンポジウムは地域をつくり

地域がシンポジウムをつくる

第五十回九州ブロック社会教育研究大会（沖縄大会）は、新型コロナウイルスの感染予防のため、開催方法を次のように変更しました。

①全体会は沖縄県内在住者を参加対象とする縮小開催とする。九州各県の理事及び参加希望者は地元ラジオ局「FMよみたん」によるライブ配信を視聴する。

②分科会の事例発表は各県で録画し、本県生涯学習振興課が運営するホームページ「まなびネットおきなわ」でオンデマンド配信を行う。助言者は担当分科会の事例発表者の発表要旨やオンデマンド配信の映像をもとに助言書を作成し、報告書に掲載する。

四月から本格化したコロナ禍を踏まえ、実行委員会は本大会の方向性や開催方法に関する案件を九州ブロック社会教育委員連絡協議会の理事会に随時上程し、三度にわたる書面開催を経て、前述の開催方法で承認を頂きました。

第50回九州ブロック社会教育研究大会沖縄大会の運営図（イメージ）



開催方法が最終的に決まったのが九月四日。まず、開催要項の修正版を作成・発送し、大会への参加を再度呼びかけることにしました。それと並行して、九州各県の理事並びに事務局にネット視聴や分科会のオンデマンド配信に伴う協力を依頼しました。

全体会の準備としては、まず地元ラジオ局「FMよみたん」にライブ配信の協力をお願いしました。当局



事例発表の撮影（石垣島）



オンデマンド配信の様子

のおかげで、九州各県の皆様が同時開帯で全体会に参加する環境を整えることができました。

考えられる対策や準備を整え、十一月二十日、読谷村文化センターを会場に約二百名の参加者と約四百九十名のネット視聴者を得て全体会が開催されました。

アトラクションでは、地元高校生による現代版組踊「肝高の阿麻和利」が披露され、参加者はそのダイナミックな踊りに魅了されました。また、琉球大学名誉教授の高良倉吉先生による記念講演では、時代の趨勢にシナやかに且つしたたかに対応してきた琉球王国の先人たちの知恵（シンボン）を学びました。

また、閉会行事に上映した次期開催県・長崎県のビデオメッセージは長崎大学の学生が編集したこともあり、反響が大きかったです。このように、情報通信技術の活用

に長けた多様な主体や若い世代と連携して作り上げた今回の大会は「開かれ、つながる社会教育」を推進する上で良い契機になったといえます。

しかし、九州各県の皆さんが顔を合わせて研究協議を深めることが出



開会行事



ライブ配信の様子

来なかったのは残念です。新生活様式のもとで研究協議を如何に進めるのかは今後の課題といえます。

今回の沖縄大会は、九州地区に住む我々一人ひとりの知恵（シンボン）が試される大会であったと述懐しています。これからも九州地区だけでなく、全国各地の皆さんと一緒に知恵を出し合い、新たな学習方法を模索していきましょう。

沖縄県社会教育委員連絡協議会

会長 森田 孟則

北から南から

誇りと愛着を育む

顕彰活動

埼玉県社会教育委員連絡協議会

会長 野澤 優



新型コロナウイルス感染の猛威が収まる気配がない中、わが深谷市の偉人渋沢栄一の大河ドラマ『青天を衝け』が二月スタート。その生涯がどう描かれるか楽しみです。

地元の血洗島獅子舞保存会の方や、市民の方々がエキストラ出演した様子が市報でも紹介されました。渋沢栄一の時代から百年ほど遡りました。その人物は、鎌倉時代の武将島山重忠の生誕地と同じ旧川本町の藤田雄山貞資で当代随一の数学者

です。残念ながら数学関係者以外では全く知られておりません。何とかその知名度を高めたいと意を同じくする同士が集い『藤田雄山貞資先生顕彰会』を立ち上げました。

雄山先生は、関流四伝の数学者で全国各地に弟子を養い、たくさんの著書を発刊、中でも『精要算法』は数学者必読の書と言わしめた名著です。書の冒頭で「今の算数に用の用あり、無用の用あり、無用の無用あり」と述べ数学の本質を追求せよと一石を投じています。当時を示す資料に相撲番付に做った和算家番付表が現存していますが、その東の大関に名を連ねており正に当代随一の数学者であったことを証明しています。幕府の天文方の一員として天文暦学で力を発揮しました。文化四年七十四歳でその生涯を閉じました。

顕彰活動の手始めとして先ず新宿区西応寺に赴き会の発足を先生の墓前にご報告。次に先生の業績を紹介する為にリーフレットを作成し、機会あるごとに知名度を高める配布活動を展開。続いて先生の生涯を絵本にまとめ地元の小中学生に無料配布し、公共施設にも寄贈して回りました。また、毎年開催する地元公民館の行事では先生の業績や関係資料の

展示発表を継続し、次世代の後継者育成のために和算問題コーナーを設置する等工夫しています。

四月二十九日を総会日と決め毎回講演会を開催し和算関係の研究者や郷土史家を招いて好評を得ています。和算小説家を自認する作家にも来ていただきました。

この顕彰会活動の集大成として、念願の顕彰碑を平成二十四年に地元を始め大勢の方々のご協力とご支援を頂き建立できました。除幕式には市長を始め大勢の方々に参列していただき盛大に挙行でき、遠くは山形からも参加いただきました。いよいよ今年は創立二十周年を迎えます。益々活発な活動を展開して、地元に対する誇りと愛着を育む地域に根差した社会教育活動を展開して参ります。



社教情報 No.84

社会教育の明日を拓く

- 特集テーマ 新しい生活様式下における社会教育委員と関係行政・機関の対応と課題
- 〈巻頭言〉 またしても、危機状況をどう乗り越えるか 全国社会教育委員連合会長 鈴木 真理
- 〈特集〉 山田智之、山田智章、松田愛子、知久鉄平
- 〈思考と提言〉 3密を避けて社会教育は生き続けられるのか 清國 祐二
- 〈この人に聞く〉 大下利栄子氏 書き手 金藤ふゆ子
- 〈社会教育委員の手引き等を読む〉 三重県「三重県社会教育委員のしおり」 解説 安藤 耕己
- 〈答申・提言〉 茨城県生涯学習審議会及び茨城県社会教育委員会議(報告書) 解説 細川 恵夢
- 〈社会教育委員Q&A〉 防災教育における社会教育の課題 神部 純一

編集・発行 (一社) 全国社会教育委員連合
TEL 03(6380)8540 FAX 03(6380)8541



社会教育による

地域づくり

北九州市社会教育委員会議

議長 野依 智子



北九州市の生涯学習総合センターで実施している事業に「北九州市民カレッジ」がある。

「北九州市民カレッジ」は前期・後期あわせて24講座で3つのコースを持っている。まちづくり・人材育成系、総合・教養系、高等教育機関提携である。いずれもここ数年、受講生は目標数を上回っており好評である。

前期のまちづくり・人材育成系の「地域力アップセミナー」は、北九州市が1967年に国の補助を受けて開始した「婦人国内研修」を前身にもつ。この研修は、北九州市の「女

性リーダー国内研修」として現在も継続しており、修了生による学習グループ「北九州婦人教育研究会」も1970年に設立され、こちらも現在継続している。市内の各種女性団体や学習グループで活動している女性を公募・選考し、国立女性教育会館（元国立婦人教育会館）はじめ首都圏の子育て支援、まちづくり、社会教育関連施設など先進事例を視察するのである。この「女性リーダー国内研修」への応募に「地域力アップセミナー」修了が条件となっている。

「地域力アップセミナー」と「女性リーダー国内研修」の修了生の多くが、社会教育主事・主事補、市民センター館長・職員となって地域づくりを支えている。さらに彼女たちの学びの継続の場として、後期の「社会教育・生涯学習基礎講座」が位置づいている。

このように、「北九州市民カレッジ」と「女性リーダー国内研修」が相互に関連しながら、地域づくり・人材育成のしくみを作っているといえる。

振り返れば、1960年代はじめ、戸畑区三六公民館の婦人学級による「公害学習」は、主婦たちによる地

域課題（工場の煙によって洗濯物が黒ずむ）解決のための社会教育の好事例として、今なお語り継がれている。講義を聞くだけではなく話し合いの中から課題を発見し、調査し、また話し合いを重ね、大学に実験を依頼し、分析して結果をまとめるといふその作業は、共同学習の典型である。

この三六公民館婦人学級の取り組みは、戸畑区婦人会協議会の組織をあげての取り組みに発展した。また、婦人学級の経験をいかして、リーダーが講師となって研修も行った。まさに、主婦の学習が地域を動かし、次なる人材を育成していったともいえる。

こうしてみると、北九州市の地域づくりひいては社会教育・生涯学習は女性の学びによって支えられているというのはいき過ぎであろうか。

〈参考文献〉山下厚生・大河内哲子「北九州市民カレッジによる社会教育の継承と発展」（『月刊社会教育』2015年5月号、国土社）

社会教育委員 必読の一冊

*法改正に対応しています

—改訂版—

社会教育委員のためのQ&A



A5判 定価1,320円(税込)
企画・編集/
(一社)全国社会教育委員連合
発行/(株)美巧社

主な内容

社会教育とは、社会教育と生涯学習
社会教育委員委嘱の範囲
諮問に応じるとは
教育委員会への助言とは
必要な研究調査とは
社会教育委員制度の活性化

社会教育と社会教育行政
实际生活に即するとは
環境を醸成するとは
社会教育を行う者とは
社会教育の振興と地方公共団体の任務
公の支配に属しないとは
教育委員会と社会教育関係団体の関係

事務局だより

既にご存知のとおり、現下の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、現在11の都府県を対象とした、政府の「緊急事態宣言」が発出されています。

本年度は、昨年4月7日の一回目の「緊急事態宣言」発出以降、年度当初から、本会では全国大会・地区別大会の対応策の検討を余儀なくされてきました。

本来ですと全国大会・地区別大会の開催など、法人の業務執行の決定は、定款第27条に基づき理事会において審議していただく事項でありましたが、早急に方向性を決定し、全国の会員の皆様方に公表する必要があったことから、急遽、会長・副会長（学識経験理事）・常務理事による臨時の役員会を開催し、令和2（2020）年5月27日付で対応策を決定し、公表したところです。

なお、この決定事項において、本年度の全国大会・地区別大会の開催・延期・中止等の決定については、理事会の承認を得ることとしておりましたので、その後、開催担当道府県・政令市と連絡を取りながら、「令和2（2020）年度全国大会・地区別大会の動向」を取りまとめ、令和2（2020）年9月10日に本年度第2回理事会（メール会議）を開催し、9月30日に承認を得て、10月1日付けで公表させていただきました。

結果的には、関係県において、記念誌作成のほか、規模の縮小や、大会の模様等をオンラインで視聴できるようにするなど工夫をされ、第62回全国社会教育研究大会（新潟大会）と、第50回九州ブロック社会教育研究大会（沖縄大会）が対面で開催されました。その模様は、本号でも紹介されています。

来年度の全国大会・地区大会の予定は、下表のようになっていきます。新型コロナウイルス感染症が1日も早く終息し、従来どおりの開催ができますことを、心から願っています。



令和3年度 社会教育研究大会一覧（予定）

全国大会	（石川大会）	10月27日（水）～29日（金）	石川県（小松市）
北海道地区	（渡島大会）	10月7日（木）～8日（金）	渡島管内（函館市）
東北地区	（山形大会）	10月14日（木）～15日（金）	山形県（新庄市）
関東甲信越静地区		11月11日（木）～12日（金）	東京都（府中市）
東海北陸地区	→ 全国大会合同開催（石川県）		
近畿地区	（大阪大会）	日程未定	大阪府（堺市）
中国・四国地区	（愛媛大会）	11月25日（木）～26日（金）	愛媛県（松山市）
九州地区	（長崎大会）	日程未定	長崎県（長崎市）
指定都市		7月2日（金）	大阪府（大阪市）